

# 歴史文化遺産を情報資源に

奄美市

## 石上氏ら3氏が報告

情報処理学会・人文  
コンピュータ研

情報処理学会の人文科学・コンピュータ研究会が、27日から3日間の日程で奄美市で開催されている。28日は奄美市教育委員会と奄美郷土研究会の共同で研究発表会があり、人間文化研究機構の石上英一氏が奄美の歴史文化遺産の保全、活用策や、歴史文書に基づく歴史像の再構築などについて報告。パネルディスカッションでは、収集史料のデータベース構築など情報資源化の重要性を指摘した。

研究会には全国から約20人の研究者らが参加。石上氏と奄美博物館長の中山清美氏、奄美郷土研究会の弓削政己氏の3氏が研究発表を行った。

「奄美遺産から日本列島を見直す」と題して報告した石上氏は、奄美諸島史研究での薩摩藩による系図文書焼棄論の誤りや、九州からの文化の南下を立証

する考古学上の奄美の重要性などを指摘。「奄美諸島には多くの史料が残っている」と述べ、史料に基づいた歴史認識の再構築や奄美12市町村の連携による歴史文化遺産の全体把握を

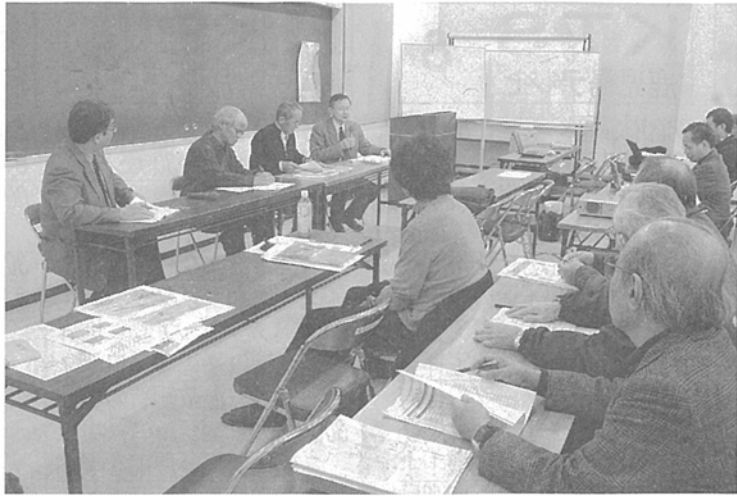
の文化財レスキューの取り組みを交えて、災害に備えた収集データベースの必要性を説いた。

弓削氏の報告テーマは「奄美群島歴史文書の概要と歴史像の再構築」。琉球統治時代と薩摩藩直轄支配下での

門家への協力を呼び掛けた。

中山氏は「奄美歴史遺産データベースによる地域文化遺産の活用と保全」と題して、奄美大島各地の墓地調査を中心に地域遺産の特徴を考察。豪雨災害後

「歴史文化遺産とその情報資源化」をテーマに意見交換した。パネルディスカッションは28日、奄美文化センター



ノロの継承制度の変容など、新たな歴史文書を基に奄美諸島史上の新解釈を示した。弓削氏は「歴史文書から新しい歴史構造を明らかにできる」と述べ、史料の保存や調査の必要性を強調した。

パネルディスカッションでは「歴史文化遺産とその情報資源化」をテーマに収集史料のデジタル化など、情報の共有や公開、活用について意見交換した。